

11:1 「イスラエルが幼いころ、わたしは彼を愛し、エジプトからわたしの子を呼び出した。

11:2 彼らは、呼べば呼ぶほどますます離れて行き、もろもろのバアルにいけにえを献げて、刻んだ像に犠牲を供えた。

11:3 このわたしがエフライムに歩くことを教え、彼らを腕に抱いたのだ。しかし、わたしが彼らを癒やしたことを彼らは知らなかった。

11:4 わたしは人間の綱、愛の絆で彼らを引いてきた。わたしは彼らにとってあごの口籠を外す者のようになり、彼らに手を伸ばして食べさせてきた。

11:5 彼はエジプトの地には帰らない。アッシリアが彼の王となる。彼らがわたしに立ち返ることを拒んだからだ。

11:6 剣は、その町々に対して荒れ狂い、かんぬきの取っ手を打ち砕き、彼らのはかりごとのゆえに、町々を食い尽くす。

11:7 わたしの民は頑なにわたしに背いている。いと高き方に呼ばれても、ともにあがめようとはしない。

11:8 エフライムよ。わたしはどうしてあなたを引き渡すことができるだろうか。イスラエルよ。どうしてあなたを見捨てることができるだろうか。どうしてあなたをアダマのように引き渡すことができるだろうか。どうしてあなたをツェボイムのようにすることができるだろうか。わたしの心はわたしのうちで沸き返り、わたしはあわれみで胸が熱くなっている。

11:9 わたしは怒りを燃やして再びエフライムを滅ぼすことはしない。わたしは神であって、

人ではなく、あなたがたのうちにいる聖なる者だ。わたしは町に入ることはしない。

11:10 彼らは【主】の後について行く。主は獅子のようにほえる。まことに主がほえると、子らは西から震えながらやって来る。

11:11 鳥のようにエジプトから、鳩のようにアッシリアの地から、彼らは震えながらやって来る。わたしは彼らを自分たちの家に住ませよう。——【主】のことば。

11:12 わたしは、エフライムの偽りと、イスラエルの家の欺きで囲まれている。しかしユダは、なお神とともに歩み、聖なる方に対して忠実である。」

イスラエルが主から遠ざかるときでも、主は「彼らと呼」んでおられました。また「愛のきずな」で導いてくださいました。それでもイスラエルは主から離れたのです。主の悲しみはそれほどだったでしょうか。

主から離れている信仰者もいますが、私たちはまず主の悲しみを心に思うべきでしょう。

そして主は「どうしてあなたを引き渡すことができようか。…心は…熱くなっている。」と仰せられます。これが神の愛です。この愛を心に受けましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

